春の歌その１

９　花の色は　移りにけりな　いたづらに　我が身世にふる　ながめせし間に　小野小町

★花の色の移りのきれいさが目で見えるように感じられて、作者がこの和歌を作った時のその背景も想像できるほど言葉の表現力がすごかった。「掛詞」という言葉を初めて聞いたが、意味の解説がとても分かりやすくて、この歌のすごさに感動した。（ベトナム）

★時間の流れは早いです。
　過した時間はもう二度くりかえしません。
　だからこそ、毎日をきちんと掴まなければなりません。（台湾）

★ふる→「旧る」と「降る」の掛詞、ながめ→「眺め」と「長雨」の掛詞が技巧的。しかもそれが歌の意味とぴったり合っているところが良い。（日本）

★小野小町は世界３大美人の一人と呼ばれるそうです。彼女はとても自分の容貌を重視しているのだと思います。だから、桜が散るのを見て、いつか自分も桜と同じように、容色が衰えるのだろうと思ったのでしょう。私がこの和歌が気に入ったのは、掛詞の表現です。最初この和歌を読んだ時、ただ桜の詠嘆だと思いましたが、解説を読んだら、この和歌の意味がもっとよく分かりました。（台湾）

★花の色が色あせてしまうことから、なんとなくさびしさと悲しさを感じることに共鳴できます。自分の容色を花の色にたとえ、その気持ちが静かに美しく描かれているのが気に入りました。（中国）

★和歌だけを見ても意味が全くわからなかったが、解説をよんでみたら、いい和歌だとわかった。（タイ）

★これを読んで、いろいろことがわかるようになった。まず、短い和歌なのに、たくさん修辞技巧が使われている。同音とか、倒置とか切迫感とか…。これらによって、絶世の美女の美しさを伝えている。とくに、花の美しさを通じて、美人の美しさを表現している。これはとても難しいと思うが、作者の才能を示していて面白いと思う。そのほか、作者や出典などのことも教えてもらった。（ベトナム）

★このホームページはシンプルで読みやすいと思います。そして、古典について理解しやすい説明も用意してくれました。本当に読む時に楽しく読む事が出来ます。意味の説明だけではなくて、発音する方法もありました。これは本当に日本文化と歴史を深く勉強できるではありませんか。
　読んだ中で一番感動させられた文章は９番です。なぜかと言うと、これは人生の中で表面的なもの以外に他の大切な事があると伝えているからです。つまり、私達は生活をしている時に他の人または周り

の環境のために本当に役立ってるでしょうか？　今まで、ただ自分の自己的な理由で生きてきていませんか？　この文を読んでそのような感情と考えが出てきました。（オーストラリア）

★９番を読みましたが、とても勉強になりました。

まず、小野小町という「絶世の美女」のことを初めて聞きました・・・クレオパトラと楊貴妃（ようきひ）と並んで世界３大美女だなんて、驚きました（しかもそんな美女が作者でもあったことにも驚いた！）。和歌よりも小野小町のほうに興味があったので、「作者と出典」が大変役に立ちました。さすがに秋田ですね。「秋田美人」？というのもありますが、小野小町となにか関係あるのでしょうか・・・。小野小町を是非一度みてみたいものですね・・・。

和歌のほうもおもしろかったです。特に「掛詞」がおもしろいですね。細かい説明があって、助かりました。それに、重要な部分を違う色でマークしてくれているのもいいと思います。こんなに短い歌なのにこれだけの深い意味を含んでいるということは不思議だと思います。（オーストラリア）

★思ったより非常に読みやすかったです。僕は朝日新聞オピニオンで出る俳句と短歌を読むことがありますが、３年間ぐらい勉強している日本語力ではまだ読むには足りないなと思うぐらい難しいものでした。でも、昨日と今日にかけて「百人一首」とその説明を読んでみるとそんなに難しくはなかったですし、むしろ楽しかったです。モンゴルに「短歌」や「俳句」といった短い詩は全くないし、よんでみて、やはり日本語、日本文化、日本社会、日本人への理解が深くなると思いました。

いま、すごく印象に残っているのは、小野小町の

花の色は 移りにけりな いたづらに 我が身世にふる ながめせし間に

と 紀友則の

久方の 光のどけき 春の日に 静心なく 花の散るらむ

という和歌です。（モンゴル）

33　久方の　光のどけき　春の日に　静心なく　花の散るらむ　　紀友則

★桜は日本の国花です。桜を通して、日本文化を勉強することができました。又、桜によって、自分の気持ちを伝えることができます。美しい言葉がたくさんあるので、立派な和歌だと思います。（中国）

★私も 33 番の和歌を作った人のように、桜の花が早く散るのを残念だと思ったことがあります。散ってしまうのを見て、早くまた春になってのどかな満開の桜の花が見たくなりました。急いで散ってしまう桜の花なのですが、それが桜の魅力ではないかと思います。（韓国）

★桜というと春を連想させる花であり、だんだん紅葉の季節に移り変わっている今となっては多少なりとも季節のギャップを感じてしまうのは確かであるが、33 番の和歌が表している美しさは単なる桜その

ものの美しさだけでなく、より広い意味で捉える事ができると考えられる。私が 33 番の和歌から感じ取った美しさは「瞬間の美」とでも言う事ができるように思える。作者の言葉を文字通りに解釈すればただ早く散ってしまう桜を、名残り惜しんでいるだけであると考えられるかも知れないが、桜の散る光景を見てきた多くの人がそう思うであろうように、作者もまた早く散ってしまう桜から儚(はかな)くて潔(いさぎよ)い「瞬間の美」を感じたのではないかと思えた。(韓国)

★桜の花がそんなに早く散らないでほしいという気持ちがよく表わされています。今も昔も、日本人の桜が好きな原因の一つは、咲いて間もなく散り始めることで、その風景が日本人の心性によくマッチするとされたにもかかわらず、この和歌は反対の立場に立っているように見えました。でも実は、この中に隠れている作者の気持ちは典型的な日本人の気持ちだと思いました。(中国)

★従来桜の美しさをテーマにした作品が多いですが、この和歌の中で桜の美しさを描写する一言もなく、逆にその美しさが消えることに対して残念だという意を表しています。このような書き方は読者に想像する空間を与え、直接桜の美しさを描写するよりも効果的だと思います。それに、日の光と比較して、桜のはかなさがよく表現されています。この外に、韻律(いんりつ)もきれいで、読んでいるうちに、自分も作者と同じ心境に踏み込んだ感じがしました。(中国)

61　いにしへの　奈良の都の　八重桜　けふ九重に　匂ひぬるかな　　伊勢大輔

★日本に来る前に、京都へ一度行ってみたいと思っていた。この和歌を読んで、もっと京都のきれいな景色を見たくなりました。ホームページの紹介を読んで、伊勢大輔は強い女性と思いました。(台湾)

★まず、正直に言うと、私にとってこの古典を読むことがあまりにも難しすぎると思います。毎行を読むたびに一個々ずつの言葉を辞書で調べなければならないことになりました。それにもかかわらず、まだ分からないことがいっぱいあります。

しかし、この古典を読んだことは、日本語について知らなかったことが何となくわかるようになったきっかけになりました。例えば、69 番の「嵐吹く　三室の山の　もみぢ葉は　竜田の川の　錦なりけり」の説明では「ジ」と「ヂ」、「ズ」と「ヅ」は以前違う発音ということでした。その上、日本語もインドネシア語と同じで擬人法(ぎじんほう)と言う技法で物事を語ることがあると知りました。

さて、この７つの古典で、私が一番気に入っているのが９番の小野小町の「花の色は　移りにけりないたづらに　我が身世にふる　ながめせし間に」です。この９番の解説を読んでみて、結構分かりやすくて面白い話であると思いました。その他に 61 番の伊勢大輔の「いにしへの　奈良の都の　八重桜　けふ九重に　匂ひぬるかな」の歌も結構印象的だと思いました。

そして、この７つの和歌を読んで、気づいたことは「花」、「嵐」、「奈良」、つまり地名や自然や季節や天候などの言葉が比喩(ひゆ)としてよく使われているということです。(インドネシア)

96　花誘ふ　嵐の庭の　雪ならで　ふりゆくものは　我が身なりけり　　藤原公経

★作者は、庭の桜の花びらが舞い散る様子を描いて、そのなかに自分の心境と感慨も含め、言葉で言えない感じが伝えられている。時間の流れにしたがって、すべてのことが変わっていく。人間として、自分の心を開放して楽しみながら毎日を過ごすべきだと思う。（中国）

★和歌で一番重要なことは、やっぱり「和歌」のもつ雰囲気だと思う。この和歌では、「桜の花、嵐、花の雪」など、たくさんのとても美しい単語が使われているので、読めば読むほど気持ちが明るくなる。そして、その内容もとても意味深い。花が枯れて、落ちていくことを自分の散り行くことと同じように思って、人と世界の関係を物語っている。世界がかわる。私たち自身もかわる。同じように“ふりゆく”。（中国）

★この和歌が一番最後にあったため、一番最初に読みました。古語がいっぱい出てきて読みづらかったのですが、読みがなが付いていたので一応読めました。まだ日本語が下手なので古典の言葉の美しさとかよく分かりませんが、韓国でもこれと似たような詩があって、和歌の感情とか雰囲気は分かりました。あとこの和歌の作者の説明もあって面白かったです。（韓国）

★まず第一に、全体的にわかりやすいと思います。花、嵐、雪などの言葉の使い方で、この和歌の雰囲気をやわらかく美しくしています。和歌が表している作者の感情はとても深いです。「ふりゆくもの」のところはよみかたが同じで、意味が違うという技法もとても素晴らしくておもしろいです。（中国）

★解説の内容がちょっと理解できた。（マレーシア）

★まず、この和歌の中で 96 番の和歌をはじめに読んだら、一番分かりやすいと思った。私は、桜の花が好きだから、この「桜吹雪」が気に入った。実は、工学系の学生として勉強しているから、あまり和歌や古典などに関心をもっていないのである。それで、好きなものに関する歌を選んだ。この和歌では、「掛詞」のような言語の使い方と和歌の古典的言葉を学ぶようになっている。昔、ベトナムにも和歌のようなものがあったが、言葉の使い方や意味が分かりにくいと思う。それが古典の一番難しいところだと私は思う。（ベトナム）

★この和歌を読んだとき、その庭のイメージが頭の中に見えた。桜の花を自分が年をとることに比べるのに感動した。「降り行く」と「古り行く」の掛詞もおもしろかった。（タイ）

★小倉百人一首に興味をもつ私が一番気に入っている歌を強いて選ぶのならば、44 番であるが、このページに掲載されている歌に限れば、96 番である。というのは、自分も共感できる内容で、二重の意味を

持つ掛詞のような言葉遊びがとりわけ面白く思えるからである。

来年の４月で、桜が散るのを見るのは４回目になるが、初めて見た２年前の自分を思い出すと、今は様々な面で随分変ったと思わされた。当時と変わらないのは能力だけだと痛感して、この歌を読むことは、自分自身を改めて考えるベストな機会にもなった。花鳥風月とはほとんど縁のない国民であるパラグアイで生まれ育った私でも、和歌を楽しむことができるページであり、少しは日本人の心に近づけたような気がする。（パラグアイ）

★「心あてに　折らばや折らむ　初霜の　置き惑はせる　白菊の花」と、「嘆けとて　月やは物を　思わする　かこち顔なる　我が涙かな」、「花誘ふ　嵐の庭の　雪ならで　ふりゆくものは　我が身なりけり」の３つの歌を読んでみました。初めて日本の古い歌を読んでみて、やはり古文って難しいなと思いました。また、英語の詩なんかを読むときも何回か考えたことなんですけど、読みながらすぐに内容とかその話者の気持ちというのが伝わらなくて、その味わいが韓国の詩を読みながらすぐ感じるのと比べて落ちる感じがします。一番良かったのは「花誘ふ　嵐の庭の　雪ならで　ふりゆくものは　我が身なりけり」でした。ホームページに関してはやはり古文の意味をどうやって理解すればいいのかが書いてあってよかったと思います。（**韓国**）

秋の歌その１

29　心あてに　折らばや折らむ　初霜の　置き惑はせる　白菊の花　　凡河内躬恒

★初めてまじめに読んだ百人一首であることも理由に入るかもしれません。初霜や白菊が白くて、清純な感じもしました。秋を代表する菊と冬を意味する霜が悲しい感じも伝わりました。（中国）

★白さと霜と菊を使って、うつくしいイメージを感じた。このような着想はタイの詩でもよく使われている。霜は冬のイメージによく通じると思う。霜と白菊のイメージを想像すると、美しい風景が見える。（タイ）

★人は、ときどき自分を騙す。本来の自分で生きたいと誰もがおもってるけれども、成長、年齢、処世経験の積み重なりにつれて、自分をだまさないといけないことがでてくるでしょう。ある時、これも心への緩和、あるとき、これも生きるための演劇ではないかと私は思います。（中国）

69　嵐吹く　三室の山の　もみぢ葉は　竜田の川の　錦なりけり　　能因法師

★69 番の和歌には自然に関係のある単語がたくさんあります（嵐、山、葉、川）。私は自然が大好きなので、この和歌を選びました。また、「ぢ」と「じ」についての説明があって、とても勉強になりました。（インドネシア）

★今の季節にぴったりな和歌だと思いました。和歌は四季の美しさをとてもよく表していて読むだけで紅葉や桜を見ているような気分になります。和歌のそんな特長を生かすためにいろんな技法が使われていて、それを知ることも楽しみです。この和歌では、「歌枕」と「見立て」が使われていますが、「歌枕」はとても気に入りました。芭蕉(ばしょう)の『奥の細道』のように、歌に歌われている場所に行ってみたい気持ちになったのです。国の自然を表現するための努力が見えてとても好きになった和歌です。（韓国）

★この和歌を読んで、日本のイメージがもっとわかるようになったと思います。なぜかというと、作者は日本の特徴、つまり山ともみじをインスピレーションとして使い、歌を作ったからです。

この歌は日本の秋のイメージをよく表していると思います。日本に来たことがない人でも、この歌の意味がわかれば、日本の秋がとてもカラフルで美しいということがわかると思います。（タイ）

★落ちた紅葉が川に流されて、竜田川を彩る様子が歌を詠むにつれて順を追って感じられるので、聞いていてとても気持ちがいい。（日本）

★紅葉を竜田川の錦に例える言い方は、非常に新鮮でした。風が吹いて一斉に落ちた落葉が、じゅうたんみたいに山を覆う様子は、確かに華やかな錦のようだなって思いました。作者はよく新鮮な直感で身の回りの風景を観察しているなと感心しました。また、たった 31 のかなに濃縮されている和歌は非常に大きな想像の空間を与えてくれます。ですから私はこの和歌がとても好きです。（中国）

★古典 Web と百人一首の 69 番について意見を述べたいです。

まず、Web の古典のページ（他のページでも）は pdf のファイルの形で掲載されていますが、pdf ファイルはダウンロードするのに時間がかかるので、html の形であれば便利だと思います。掲載された百人一首の歌はグループごと（例えば、秋の歌、春の歌、愛の歌など）に集めたほうがいいと思います。

６９番： 嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり（能因）

これは確かに日本の秋の絵です。最初、風が吹いて、ちょっと秋の寒さを感じています。山に紅葉が花のように咲いていて、山が赤く見えてなんとなく温かい感じがしています。川面にその山の姿が投影されていて、錦のようだと気づいて驚き、その感動をよんだと思います。この歌はただ秋の美しい絵を描いたのではありません。錦とは着物を作る織物、つまり、女性の隠喩(いんゆ)です。能因は旅をする歌人です。美しい景色をみて、昔の人（恋人あるいはお母さん、しかし私はなんとなくお母さんを感じています――きっと私の自分の感情の影響があると思います）が思い出されました。そのため、川が錦のようであると気づいたのでしょう。（私はこの歌が好きです！）（ベトナム）

★私は６９番の能因の和歌が気に入りました。どうしてかというとこの和歌は今の気持ちと今の季節にとても合っているからです。というのはこの和歌は秋と関連しています。和歌の最後は「・・・竜田の

川の錦なりけり」となっていて、能因の驚き、「もう秋だな」という気持ちを表しています。私も日常的な忙しさで突然紅葉に気づいて、「暖かい日が続いていても、もう秋が来たんだ」と思いました。人々は自分の用事で忙しくて、周りの自然の変化にあまり気づかないけど、ある日雨が降ったあと、全ての木の葉っぱが黄金色にかわっていてその変化に驚いたりします。（カザフスタン）

86　嘆けとて　月やは物を　思はする　かこち顔なる　我が涙かな　　西行法師

★初めてよんだ時はあまり理解できませんでした。でも気になったのはちょっと悲しい感じがしました。月や涙というものが出たからです。

　また意味の解釈をよむと何となく共感しました。恋ということに失敗した私には時々月をみて昔のことを思い出したことがあったからです。でも今はもうないです　＾－＾　（ベトナム）

★月夜に一人で物思いにふけるのは、寂しくも美しい、私の大好きな雰囲気である。特に悩み事を抱えていない時も、ついつい月を見ながら、哀愁を感じることがあるので、作者の気持ちにとても共感を覚える。また、この和歌は月を人間のようにたとえ、私の好きな中国の詩人、李白（りはく）の「挙杯邀明月、対影成三人」の句を連想させる。両作者の似たような境遇がこの同じ技巧を生んだのであろうか。そしてあくまでも個人的な見解ではあるが、たとえ歌人が出家したとしても、この歌を恋の嘆きだと見てはよくないだろうか。いや、こういう美しい思いがあるからこそ、この歌が現在まで愛され続けている理由だと思う。（中国）

★なんとなく少し分かるような気がする。もし古い日本語の心がわかるような解説があったらいいと思う。その和歌を書いたときの背景や気持ちを紹介してくれれば、さらに理解に役立つと思う。でも、自分の理解とホームページの解説はずいぶんずれてる感じがした。難しかった。。。さらに初級コースか入門コースがあったらいいよね。。。（中国）

★十分に理解するのはむずかしいと思いますが、この和歌「嘆けとて　月やは物を　思はする　かこち顔なる　我が涙かな」は、古い時代の人であれ、いまの人であれ、物事に対する感覚が共通であることを表しているのではないでしょうか。人は死ぬ、そして、新しい生命が誕生する。千年万年も変わらない月は、人間の悲劇、喜劇を見てどんな顔をするのだろう。そして、人間はその月を見ると、どんな顔をするのだろう。世はかわっている。月もそうなのか。（中国）

（３）「古典へようこそ」についてのアンケート結果（留学生３５人）

A.　①とてもむずかしかった　　９人
　　②むずかしかった　　１８人
　　③ちょうどよい　　７人

④かんたんだった　　１人

B. ①とてもおもしろかった　　２人
②おもしろかった　　２３人
③どちらでもない　　７人
④あまり興味がない　　３人

C. ルビは ①多すぎる　５人　②ちょうどよい　２０人　③少なすぎる　０人

D. 今までに古典を勉強したことが ①少しある　９人　②まったくない　２６人

E. 他にどんな日本の古典を読んでみたいですか。

万葉集、枕草子、伊勢物語、源氏物語、平家物語、今昔物語集、宇治拾遺物語、教行信証、
俳句（松尾芭蕉、奥の細道）
平安時代のもの、有名なもの、歴史的なもの

F. 他にどんな日本の小説（現代や近代）を読んでみたいですか。

夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、川端康成、三島由紀夫、向田邦子、村上春樹、吉本ばなな、
ベストセラー、話題の本、ドラマ化されたもの、推理小説、時代小説
日本に来たら知っているべきもの、日本人の生活と関係があるもの、日本人の今の生活を反映するもの

☆　　☆　　☆　　☆　　☆

以上です。みなさんは、いかがですか。